



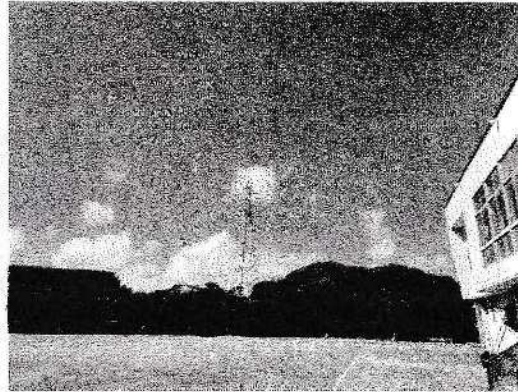
にし かま

鎌倉市立西鎌倉小学校 学校通信
令和6年度 第3号 (R6.9.9)
校長 上 太一

【学校教育目標】

「自ら学ぶ意欲と豊かな心を持ち、

仲間と、地域と、自然と共に、たくましく生きる児童の育成」



空にはまだまだ夏が残っています。

2学期がスタートしました

台風による雨が心配された8月末でしたが、無事乗り切り、通常日程で2学期の始業式を迎えることができました。

朝、子どもたちを迎えた際、素敵な笑顔とともに元気よく気持ちのよい「おはようございます！」のあいさつをしてくれる子がたくさんいました。子どもたちの笑顔から、楽しく充実した夏休みを過ごせたことがわかりました。

2学期は、1年間の中でも一番長い期間で、夏から秋、そして冬へと季節も移り変わりそれに伴う行事もたくさん行われます。さまざまな場面で地域や保護者の皆様のご理解とご協力を仰ぎながら、西鎌倉小学校の子どもたちが成長できるように努めていきたいと思っています。

2学期もどうぞよろしくお願いいたします。

【新しい時代に向けた学校】

近年、世の中は「情報社会」の次のフェイズといわれる「Society5.0」(簡潔な名前はまだついていないそうです。内閣府によると「サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会」と表現されています)に突入したと言われています。

今の子どもたちが活躍する未来は、これまで私たちが予想できていた未来の社会とは違い「予測不可能な社会」となることが予想されます。

そんな激変する社会の流れに「教育」を照らし合わせてみると、学校教育は実は150年近く、学校業務や授業の在り方などについて、大きな改革のないまま現代まで至っていました。

しかし、2017年に文科省から出された学習指導要領と呼ばれる基準に、これからの未来で活躍できる児童・生徒を育てるべく「主体的・対話的で深い学び」の実現が示され、2019年12月にはその

学びを実現するべく国策として一人一台端末(鎌倉市では iPad)が配付されるなど、教育環境も劇的に変化しました。

そんな学習ツールの一つであるタブレット端末(iPad)やICT機器を活用しながら、新しい授業や学校教育の在り方について、本校も研究を進めています。

当たり前を見直す。

これからの子どもたちが活躍する予測不可能な未来を考えると、予測のできる未来しか待っていなかった過去の「教育での当たり前」を、「見直す」ことが必要だと考えます。

教育で大切とされている言葉に「不易と流行」というものがあります。

その「不易」について、本質を失わず、未来に合わせてアップデートしていくことに西鎌倉小学校は挑戦していきたいと思えます。

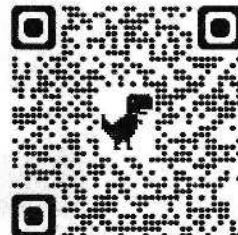
未来で活躍できる西鎌倉の子どもたちのために。



内閣府 HP
SOCIETY5.0

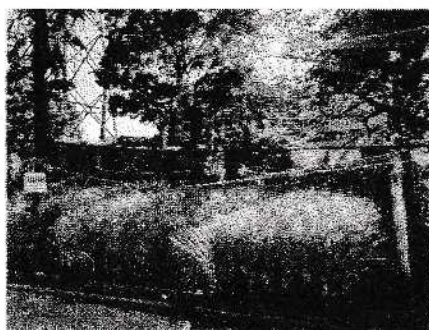


文部科学省
動画でわかる SOCIETY5.0



経団連
デジタルで創る、私たちの未来

【5年生の稲】



1学期、いつも学校教育に尽力して下さる地域にお住いの元川さんのお力を借りて、田植えから始めた稲がこの夏を超えて大きく実ってきました。

子どもたちが夏休みの間、夏の厳しい日差しや台風による大雨や大風の際にも5年生の稲を気にかけて、水の具合や倒れないよう田んぼや稲の管理をしてくださいました。

5年生の社会科で稲作や農業全般について学習しています。

しかし学習したと言っても、お米は放っておいて育つものではありません。しっかり愛情を持って育てないと立派に実らない、ということや、土の大切さ、水の大切さ、お米の大切さ、そして農業への感謝、元川さんへの感謝を稲づくりの体験を通して5年生には学んでほしいと思えます。

決して ICT というデジタルでは伝えきることのできない心と五感に触れる学びも、西鎌倉小学校では大切にしていきます。

元川さん、酷暑の中でしたが子どもたちの教育へのご尽力、心から感謝いたします。

